

道北地域研究所 平成27年度事業報告

名寄市立大学道北地域研究所

はじめに

道北地域研究所は「北海道、とくに道北地域における保健・医療・福祉・教育・文化の充実・発展及び産業経済の振興に寄与する研究を行うこと」(規程第3条)を目的として、地域に貢献する研究所の役割を担ってきた。平成22年度からは新たな方向性として「子ども・若者・高齢者にやさしいまちづくり」をめざしてきたが、寒冷過疎地域における定住自立圏構想をも視野に入れ、地域創生という新たな検討課題も含めた研究所の新たな体制づくり求められることとなっている。

本年度は名寄市立大学の「ケアの未来をひらく」を理念として「すべての住民が安心して暮らし続けられる地域社会」の形成のために、道北地域研究所と地域交流センターの統合による「コミュニティケア教育研究センター」の設立を本格化することを目的とした課題研究に取り組み、市民公開講座を開催し、合同会議によっても議論を深めてきた。以下にその概要を報告する。

1. 諮問会議の開催

平成27年度の諮問会議を7月8日(水)16時30分から、新館大会議室において12名の諮問委員が出席し、鈴木邦輝氏(名寄市博物館指導員)を議長に開催された。コミュニティケア教育研究センター構想について学長から報告があり、5名の諮問委員から質疑があった。事務局体制の質問、3部門の構成が本学の教員のみであるのか、地元就職・進学を希望する高校生への教育支援への要望等であった。久保委員からは、初めて説明を受けたので質問や意見を出しづらいとの発言があった。

9月4日(金)16時30分から、第2回諮問会議を新館大会議室において9名の諮問委員が出席して開催された。8月21日締め切りで、あらかじめ質問票を受け付けて開催した。コミュニティケア教育研究センターの全体像をおおむね理解できたとする意見があったが、人材確保や地域課題にどう応えていくかなどの検討課題や期待こめた活発な議論があった。

2. 研究プロジェクトの推進

平成27年度の「課題研究」は「コミュニティケア教育研究センター」の設立のために、「大学に付設された教育研究センターの視察及び調査研究」を大きなテーマとして掲げる課題研究を合同会議の委員と設立準備委員会の構成員で実施した。また、課題研究の公募によって、2つの「課題研究」も実施することにした。

〈道北地域研究所における課題研究〉

(1) 大学に付設された教育研究センターの視察及び調査研究

研究代表者 松倉聡史(社会福祉学科)

共同研究者 中島常安(児童学科)、清水池義治(教養教育部)、大坂祐二(社会福祉学科)、吉中季子(社会福祉学科)、堀智久(社会福祉学科)、笹木葉子(看護学科)、武田富美子(看護学科)、大見広規(栄養学科)、古都丞美(栄養学科)、
設立準備委員会の構成員

(2) 看護師不足が顕著な地域と都市部の職務満足度の実態調査

研究代表者 深川知恵子(看護学科)

共同研究者 南山祥子(看護学科)、松島佳寿夫(事務局長)、造田亮子(看護学科)、鈴木朋子(看護学科)、武田かおり(北海道科学大学保健医療学部看護学科)

- (3) 上川北部地域における「福食農連携」による精神障害者就労支援に関する研究
研究代表者 結城佳子（看護学科）
共同研究者 木下一雄（社会福祉学科）、清水池義治（教養教育部）、
寺町三善（道北障害者就業・生活支援センターいきぬき センター長）、
武士博之（株）ギグルス 障害者就業継続支援A型事業所 代表取締役

〈教育研究費特別枠支援による研究・事業〉参考資料

- (1) 「商店街あそびの広場」～「児童文化」で学生と子ども・地域をつなぐ～
事業代表者 今野道裕（児童学科）
- (2) 学校給食における市町村教育委員会の役割と課題—リスク管理を軸に—
研究代表者 久保田のぞみ（栄養学科）
- (3) 名寄市における子育て支援のための大学と地域の連携事業
事業代表者 伊藤亜希子（看護学科）
- (4) 過疎地域における在宅家族介護者の組織化の実態と活性化の課題
研究代表者 黄京性（社会福祉学科）
- (5) 管理栄養士養成課程卒業者の就職動向に関する調査研究
研究代表者 高野良子（栄養学科）
- (6) 学生が主体的に看護基礎演習に取り組む場の提供に関する研究
研究代表者 深川知恵子（看護学科）
- (7) 市民を対象としたタッチケア・罨法の効果の検証
研究代表者 加藤千恵子（看護学科）
- (8) 長い冬季地域の高齢者における室内運動の効果
研究代表者 段 亜梅（看護学科）
- (9) 国際シンポジウム：「ケアの実践現場における漢方医学の応用について」
事業代表者 段 亜梅（看護学科）
- (10) 看護大学における教員の定着に関する研究
研究代表者 永谷智恵（看護学科）
- (11) 道北地区の透析施設における患者ケア向上に向けての課題及び透析スタッフに必要な学習支援に関する調査研究
研究代表者 本吉美也子（看護学科）
- (12) 老年看護学フィジカルアセスメント演習に高齢者模擬患者を導入したことによる臨地実習への影響
研究代表者 造田亮子（看護学科）
- (13) 障害者就業・生活支援センターの支援状況と課題に関する研究
～北海道内における精神障害者就業支援と合理的配慮～
研究代表者 小銭寿子（社会福祉学科）
- (14) 道北地域の保護司活動の現状と課題—「名寄更生保護サポートセンター」の取り組みを通して—
研究代表者 佐藤みゆき（社会福祉学科）
- (15) 高齢者精神障害者のライフスタイルと地域生活支援の課題に関する研究
研究代表者 松浦智和（社会福祉学科）
- (16) 道北過疎地域における精神障害者の自立支援に関する調査研究
研究代表者 木下一雄（社会福祉学科）

- (17) 名寄市立大学の教職課程を履修し正規職員となった卒業生の教師の成長モデルの検討
研究代表者 石川貴彦（教養教育部）
- (18) 新しい学問領域の開拓—社会保育学の枠組み構築に向けた研究
研究代表者 三国和子（児童学科）

3. 市民公開講座の実施

平成27年度は学外教員と本学の教員の市民公開講座を以下の通り、開催した。

第1回（9月3日）「大学の地域貢献と研究センターの役割」

小樽商科大学ビジネス創造センター長

小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻教授

李 濟民

参加者数42名

第2回（10月22日）「子どもの権利救済とまちづくり～子どもオンブズパーソン制度の経験から～」

千里金蘭大学教授生活科学部教授

吉永 省三

参加者数46名

第3回（12月19日）「日本の子どもの貧困～その現状と支援を考える～」

千葉明德短期大学保育創造学科教授

山野 良一

参加者数33名

第4回（1月27日）「村上春樹と道州『性』」

名寄市立大学保健福祉学部教養教育部准教授

関 朋昭

参加者数28名

4. 研究例会の実施

課題研究に関連した研究例会を、3月16日に新館大会議室にて実施した。

(1) 上川北部地域における「福食農連携」による精神障害者就労支援に関する研究

研究代表者

結城 佳子

(2) 地方と都市の病院で働く看護職の職務満足度と職務継続意志の比較検討

研究代表者

深川知恵子

(3) 大学に付設された教育研究センターの視察及び調査研究

研究代表者

松倉 聡史

発表者

笹木 葉子

松倉 聡史

5. 地域シンポジウムの開催について

昨年度、道北地域研究所と地域交流センターとの合同企画「地域と大学」フォーラムとして開催した「学生のボランティア活動がもたらすものと支援の課題」を引き継ぐものとして、「地域と大学をつなぐ組織づくり」（仮）をテーマとするフォーラムの企画・実施を検討したが、準備不足のために開催を中止した。

6. 他団体との協力

平成27年11月7日に名寄市立大学短期大学部“こども”セミナーを児童学科と共催で実施した。

平成28年3月5日に国連NGO/NPO法人子どもの権利条約総合研究所北海道事務所主催シンポジウム「北海道の子ども条例と子ども相談・救済機関の取り組み」を道北地域研究所との共催で実施した。会場は札幌の北海学園大学豊平キャンパスで開催し、参加者数は43名であった。

基調報告 子ども条例に基づく子ども相談・救済機関の役割と展望

半田 勝久（日本体育大学准教授）

シンポジウム 子どものSOSと相談・救済機関の取り組み

札幌子どもアシストセンター	吉川 正也（弁護士）
北広島市子どもの権利救済委員会	内田 信也（弁護士）
士別市子どもの権利救済委員会	野中 英樹（弁護士）
世田谷区子どもの人権擁護機関「せたホッと」	一場 順子（弁護士）

子どもの権利条約を日本が批准して20年余が経過し、北海道でも子ども条例を制定している自治体が増加している。しかしながら、子ども条例に基づく相談救済機関は札幌市、北広島市、士別市が相談・救済機関を整備するにとどまっている。芽室町では実情に応じた組織が整備され、奈井江町では相談・救済機関を強化するための条例改正を進めている。先進的な取り組みをしている世田谷区子ども人権擁護機関「せたホッと」を参考に、子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもとともに解決策を探り、関係者の調整や是正を講ずることにより、子どものエンパワメントを支援する取り組みの報告と議論を重ねる貴重なシンポジウムとなった。

3月15日に「上川北部地域看護系進学者のための応援講座」を共催で実施した。

3月18日に「道北の地域振興を考える研究会」との共催で第20回「道北の地域振興を考える講演会」を開催した。

7. 「コミュニティケア教育研究センター」の設立に向けて

コミュニティケア教育研究センターの設立に向けて、道北地域研究所と地域交流センターの統合について、合同会議での議論を重ねた。9月9日には教授会懇談会（コミュニティケア教育研究センターについて）を実施し、合同会議でも研究課題、市民公開講座、地域シンポジウム等の開催やボランティア許可ガイドラインのもとに基本的な事業を引き継ぐことで合意した。また、コミュニティケア教育研究センター設置準備委員会が設けられ、合同会議の議論が尊重されることとなった。コミュニティケア教育研究センター規程が3月16日の教授会で採択された。

8. 年報（地域と住民）第34号の発行

「地域と住民」第34号を発行し、研究報告7編と彙報3編を掲載する。

平成27年度 事業日誌

- 平成27年 4月28日 第1回 道北地域研究所・地域交流センター合同会議(H27年度次長選出、事業計画他)
- 5月 8日 平成27年度 地域交流センターボランティア入門講座
- 22日 第2回 合同会議(課題研究、諮問会議、地域交流センター運営委員会他)
- 6月16日 第3回 合同会議(課題研究、諮問会議、地域交流センター運営委員会他)
- 30日 第4回 合同会議(H27年度事業案、市民公開講座他)
- 7月 1日 第1回 評議員会
- 8日 平成27年度 諮問会議
- 21日 第5回 合同会議(諮問会議の確認・反省、第2回諮問会議日程、教授会懇談会他)
- 27日 小樽商科大学ビジネス創造センター訪問(松倉、中島、堀)
- 8月21日 第6回 合同会議(コミュニティケア教育研究センター関連、教授会懇談会他)
- 9月 3日 第1回 市民公開講座「大学の地域貢献と研究センターの役割」
- 4日 平成27年度 第2回諮問会議
- 9日 教授会懇談会(コミュニティケア教育研究センターについて)
- 26日 2015年度道北の地域振興を考える研究会セミナー(共催)
- 10月22日 第2回 市民公開講座
「子どもの権利救済とまちづくり～子どもオンブズパーソン制度の経験から～」
- 11月 2日 『地域と住民』第34号投稿申込み開始
- 7日 2015年度名寄市立大学短期大学部“こども”セミナー(共催)
- 16日 大分看護科学大学訪問(松倉、笹木、武田)
- 19日 第7回 合同会議(市民公開講座、H28年度予算、年報他)
- 30日 『地域と住民』第34号投稿申込み締切
- 12月19日 第3回 市民公開講座「日本の子どもの貧困～その現状と支援を考える～」
- 31日 『地域と住民』第34号原稿締切
- 平成28年 1月
- 13～14日 「地域を彩る食物語」(北見市)パネル参加
- 14日 第8回 合同会議(年報他)
- 27日 第4回 市民公開講座第「村上春樹と道州「性」」
- 3月 5日 国連NGO/NPO法人子どもの権利条約総合研究所北海道事務所主催シンポジウム
「北海道の子ども条例と子どもの相談・救済機関の取り組み」(共催)
- 15日 上川北部地域看護系進学者のための応援講座(共催)
- 16日 研究例会
- 18日 第20回 道北の地域振興を考える講演会(共催)
- 31日 年報『地域と住民』第34号発行
- *その他 年報第34号編集作業

＜道北地域研究所の構成(平成27年度)＞

1 組織体制

所長	松倉 聡史
次長	中島 常安
企画委員	大見 広規
	笹木 葉子
	堀 智久
	吉中 季子
事務員	刀 禰 聡美

2 研究員・評議員

[氏名は50音順]

氏名	研究分野・領域	地域に関わる研究・活動	備考
安藤 清一	食品生化学	地域資源・有効利用・ヒマワリ油	
石川 貴彦	教育工学・情報科学	情報処理・パソコン教育	
伊藤 亜希子	公衆衛生看護学・基礎看護学	子育て支援、育児支援とソーシャルサポートの関連、父親の育児休業取得、健康教育	
市川 晶子	給食経営管理論		
糸田 尚史	臨床児童心理学	子どもの心理検査、発達相談、就学指導、特別支援教育相談、療育コンサルテーション	
梅澤 敦子	栄養教育		
江連 崇	社会福祉史・歴史社会学	戦後北海道民衆史研究	
大坂 祐二	社会教育論・福祉教育論	青年期教育、若者の地域活動・文化活動、YOSAKOIソーラン、男女共同参画、子育て支援	研究員
大西 亜希子	成人看護学・家族看護学	慢性心不全、慢性期看護、家族看護	
大見 広規	健康科学	胸骨圧迫とAEDによる心肺蘇生法普及事業	企画委員・研究員
荻野 大助	統計、公衆衛生	医療保健統計、医療の質	
忍 正人	地域福祉		
小野寺 智子	応用微生物学		
小野寺 理佳	家族社会学・教育社会学		
小野川 文子	特別支援教育	肢体不自由教育、病弱教育、寄宿舎教育	
加藤 隆	教育学、道德教育	教育学・初等教育・デスエジュケーション・学校種間の連携	
加藤 千恵子	母性看護学	タッチケア、ピアエデュケーション、健康教育、妊婦のマイナートラブル	
木下 一雄	精神保健福祉・精神科ソーシャルワーク論	過疎地域精神障害者支援・精神科医療・精神障害者家族支援・精神保健福祉援助技術	研究員
工藤 慶太	食品機能学	地域未利用資源の有効利用に関する研究	
久保田 のぞみ	応用栄養学・栄養教育	地域における栄養管理・栄養士業務	
黒河 あおい	栄養教諭論、食生活食文化論、食生活指導論	地域の食育・地場産物と学校給食・教育方法	
小古間 甚一	アメリカ文学	文学・英語、英検名寄地区実施委員	
小銭 寿子	ソーシャルワーク論、地域精神保健福祉、医療福祉論	養育者支援に関する研究、障害者就労支援に関する調査研究、スクールソーシャルワークスーパービジョン	
小林 宏	臨床心理学、不登校の研究	名寄高、天塩高、士別翔雲高等のスクールカウンセラー	
今野 道裕	児童文化	人形劇、世代間交流、おもちゃ、絵本	
齋藤 千秋	在宅看護	在宅での看取り、高齢者介護、地域連携	
佐々木 俊子	小児看護学	障がい児、母親、愛着形成	
笹木 葉子	母性看護学	妊婦夫婦へのサポート、産後ケア、育児相談、子育て支援、タッチケア	企画委員 研究員
佐藤 郁恵	基礎看護学、成人看護学	終末期ケア、看護倫理、看護過程、看護学教育	
佐藤 みゆき	民法・社会保障法・司法福祉	名寄市総合計画・地域福祉計画・地域福祉実践計画への参画	
清水池 義治	農業市場学・食品産業論	農作業体験、地域ブランド、天塩川、ネットワーク組織	研究員
鈴木 朋子	基礎看護学	基礎看護学教育	研究員
関 朋昭	スポーツ経営学・教育学	経営学、教育学、スポーツ、村上春樹	
瀬戸口 裕二	障害科学・認知心理学	特別支援教育体制整備、学校コンサルテーション、就労支援	
造田 亮子	老年看護学、災害看護学	老年看護学教育、災害の備え	研究員
高野 良子	臨床栄養管理	地域における医療・福祉連携（栄養）	
武田 富美子	在宅看護論	地域づくり、家族、高齢者	研究員
田中 利宗	ソーシャルワーク論	名寄の歴史文献収集	
田邊 宏基	栄養化学・食物繊維	食品の生理機能の探索	
段 亜梅	老年看護学	高齢者の転倒予防、高齢者の健康課題（骨密度・体組成）	
千葉 昌樹	公衆栄養学、連携教育	危機管理・災害時の栄養、健康づくり	
塚本 陽子	公衆衛生看護学	保健師教育 保健師活動	

氏名	研究分野・領域	地域に関わる研究・活動	備考
寺山和幸	健康科学	名寄市民のQOL実態調査	
傳馬淳一郎	子ども家庭福祉・保育学	保育者養成、子育て支援、多世代交流	
中澤洋子	成人看護学	がん、病気体験	
中島常安	保育学、発達心理学	集団保育、平和教育等保育の質の向上	企画委員・研究員
中島泰葉	精神看護学		
長嶋泰生	栄養疫学		
永谷智恵	小児看護学	子ども虐待予防、子育て支援、知的障害児の性教育、障害を持っている子の医療的ケア	
中西さやか	保育学、幼児教育学		
長谷川武史	地域福祉・高齢者福祉		
長谷川博亮	精神看護学	自殺予防対策、メンタルヘルス、ゲートキーパー講習	
長谷部幸子	栄養教育	栄養教育・食育・子育て支援	
長谷部佳子	成人看護学	がん、脳血管疾患、QOL、看護技術、看護教育	
播本雅津子	公衆衛生看護学・連携教育	保健師活動、保健師教育、看護職員確保対策、連携教育	
黄京性	高齢者福祉	過疎寒冷地一人暮らし高齢者のQOL向上	
深川知恵子	基礎看護学・老年看護学	看護管理、職務満足、認知症の看護、リビングウィル・エンディングノート、保健医療福祉のしくみ等	
古都丞美	調理学・給食経営管理論		研究員
古牧徳生	哲学	生命倫理、進化論	
堀智久	障害者福祉論	名寄市の障害者政策	企画委員・研究員
松浦智和	精神保健福祉学、公衆衛生学	メンタルヘルス、自殺予防、統合失調症患者の地域生活支援	
松岡是伸	公的扶助分野		
松倉聡史	憲法・教育法・子どもの権利	自治体における子ども条例と教育施策、日本と韓国の教育実践	研究所長 研究員
マーティン トゥズ	応用言語学	英語	
三国和子	音楽科教育学・保育音楽	幼児の音楽活動、音楽科の授業構成、異文化理解、合唱	
三井登	体育史・教育史・体育方法・子育て支援	自然と身体、身体づくり、食育、子育て支援	
南山祥子	成人看護学	肩こり、温罨法、湿熱・乾熱刺激	研究員
宮内俊一	社会福祉・児童学科	社会的養護・児童虐待・社会的情緒的学習	
村上正和	成人看護学	急性期看護、BLS教育、eラーニング	
村本徹	農村・施設計画		
本吉美也子	成人看護学	透析看護、スタッフ教育支援	
矢野芳美	小児看護学	障がい児者きょうだい・家族、子どもの権利	
山本里美	老年看護学・基礎看護学	高齢者・心身相関・死生観・QOL	
山本達朗	神経解剖学・神経発生学		
結城佳子	精神看護学・精神保健福祉	自閉症スペクトラム、教育的支援、統合失調症、生涯発達、統合性	研究員
雪野繼代	食品化学・微生物学	脂質分析	
吉中季子	社会保障・公的扶助	地域における貧困問題の析出、女性と子どもの貧困	企画委員・研究員

3 諮問会議委員 [氏名は50音順、敬称略]

氏名	所属
和泉裕一	名寄市立総合病院院長
扇谷茂幸	名寄商工会議所専務理事
大沼広明	名寄青年会議所理事長
岡本守	北星信用金庫理事長
川田弘志	名寄市経済部長
久保和幸	名寄市副市長
黒井徹	名寄市議会議長
駒井英洋	下川町総務課長
佐藤靖	北都新聞社社長、名寄消費者協会会長
鈴木邦輝	北国博物館専門指導員
中島道昭	道北なよろ農業協同組合組合長
中野秀敏	北海道議会議員
中峰寿彰	士別市総務部長
増田雅彦	北海道名寄産業高等学校校長
益塚典子	名寄市立総合病院看護部長
三谷正治	名寄市社会福祉協議会事務局長
吉田肇	上川北部医師会会長
渡辺英行	美深町総務課長

道北地域研究所の閉所にあたって

道北地域研究所所長 松倉 聡史

1982（昭和57）年6月5日に、道北地域研究所は名寄女子短期大学が付置した研究所として開所された。

1960（昭和35）年に名寄女子短期大学が開学されて23年目にして、念願の付置研究所が発足したことになる。「写真でつづる市立名寄短期大学40年の歩み」（市立名寄短期大学40周年記念事業委員会・市立名寄短期大学同窓会、2000年11月30日）には、初代の所長であった美土路達雄学長が現在も研究所に掲げられている「道北地域研究所」の大きな標札を誇らしげに正面玄関に掛けている姿が映し出されている。この記念誌の道北地域研究所の特集には第20回シンポジウムで基調報告をする札幌学院大学の布施晶子教授（後に札幌学院大学学長）や本学の津田美穂子教授の写真や諮問会議に出席する若かりし先生方の写真が収められている。

道北地域研究所の年報「地域と住民」第1号には、美土路所長のあいさつが「道北地域研究所の開所にあたって」と題されて記録されている。そこには、名寄女子短期大学の教員が一丸となって道北地域研究所設置を望む意気込みと地域住民の期待の大きさ、さらに当時の研究所運営の厳しささえもが伝わってくる。

美土路所長は道北地域研究所の設立と運営に託する「わたしたちの3つの願い」を紹介し、諮問委員をはじめとする住民に支援を語りかけている。

第一の願いは教職員の研究の一層の推進、伸張と、共同研究の場の構築であるとする。研究条件が必ずしも十分ではないなかで、地域生活に即した、いわば学際的に各人の専門研究を関連づけて、研究と教育を進化させていくことが必要だとしている。そのためには教員全員が研究所員を兼ね、いわば全構成員でつくりあげ、運営していく研究所ということにしたいとの願いが込められていた。

第二の願いは道北地域の過疎化の進行に悩む住民の切実な地域振興の思いと教員の研究推進の思いを接点として、共通共同の場の相互拡大の努力をすることが研究所に託された大きな課題だとしている。わが国で最北の公立大学の教員として高等専門教育と研究に取り組むことは同時に地域貢献としての任務を付託されているとしている。

第三の願いは各省庁、道、市町村の試験研究機関の専門家、地域の学校職員、自治体その他の団体職員の方々と交流を深め、提携し、さらに国内外の大学とのネットワークによって共同研究にまで発展させることであるとする。

さらに開所への祝辞として、元北海道大学学長であった今村成和顧問から「教育と研究の両立」ということへの高邁な抱負に敬意を表するとの言葉も記されている。

道北地域研究所と地域交流センターからなる合同会議において、短期大学当時から在職する教員の意見には名称においてさえ、「道北」という言葉を残すべきであるとか、研究員は教員全体からなる構成員として一丸となったセンターにすべきとの声が聞かれた。私も市立名寄短期大学教員であったときには「道北地域研究所」に集って、教員同士で教育や研究を真摯に語り合ったことを覚えている。「コミュニティケア教育研究センター」に道北地域研究所と地域交流センターが統合されて幕を閉じることになるが、道北地域研究所に注がれた美土路所長の精神が継承されて「ケアの未来を開く」さらなる発展に結びつき、大学と地域とを結ぶセンターとなることを期待したい。

執筆者紹介 (本文掲載順)

松浦智和	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科講師
佐藤みゆき	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科准教授
家村昭矩	前名寄市立大学嘱託教授
長谷川武史	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科講師
濱谷紀子	名寄市嘱託職員
佐藤俊之	名寄市嘱託職員
松倉聡史	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科教授
武田富美子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科准教授
笹木葉子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科教授
結城佳子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科教授
清水池義治	名寄市立大学保健福祉学部教養教育部准教授
木下一雄	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科助教
中島泰葉	名寄市立大学保健福祉学部看護学科助手
武士博之	株式会社Giggles
寺町三善	道北障害者就業・生活支援センターいきぬき
造田亮子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科助教
橋本由紀子	吉備国際大学連合協力研究科
深川知恵子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科准教授
南山祥子	名寄市立大学保健福祉学部看護学科准教授
松島佳寿夫	名寄市立大学事務局
森田静江	名寄市立総合病院看護部
武田かおり	北海道科学大学保健医療学部
齋藤千秋	名寄市立大学保健福祉学部看護学科助教
柴野武志	名寄市役所健康福祉部社会福祉課
狩野志麻	就労移行支援事業所キャリアエスコート
高柳玲奈	就労移行支援事業所リベルタ
瀬戸口裕二	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科教授
糸田尚史	名寄市立大学短期大学部児童学科教授
野中紀鷹	名寄市立大保健福祉学部栄養学科3年
村上紗規	名寄市立大保健福祉学部栄養学科3年
秋田華月	名寄市立大保健福祉学部看護学科3年
惣藏玲奈	名寄市立大保健福祉学部看護学科3年
船木はるか	名寄市立大保健福祉学部看護学科3年
村上奈津季	名寄市立大保健福祉学部看護学科3年
吉田冴鈴	名寄市立大保健福祉学部看護学科3年
松岡義和	市立名寄短期大学名誉教授

道北地域研究所年報 **地域と住民** 第34号

平成28年3月31日 印刷・発行

編集兼発行

名寄市立大学 道北地域研究所

編集委員：松倉 聡史、中島 常安、大坂 祐二、大見 広規、笹木 葉子、
清水池義治、武田富美子、古都 丞美、堀 智久、吉中 季子

編集補佐：刀禰 聡美

北海道名寄市西4条北8丁目1番地 TEL(01654)2-4194

ダイヤル(01654)2-4199(内線)2101 FAX(01654)3-3354

E-mail:chiken@nayoro.ac.jp

印刷所：有限会社 喜多印刷所

